

内倉滋先生退職記念号に寄せて

経済学部長 倉 橋 透

獨協大学経済学部では、2023年3月をもって定年を迎えられ教授職をご退任される内倉滋先生の長年にわたる多大のご貢献を讃える趣旨から、獨協大学『獨協経済』の月号（115号）を退職記念号とし、これを贈呈させていただくことといたしました。

以下では、内倉滋先生のご経歴とご業績を紹介させていただきます。

内倉滋先生は、1975年3月に慶應義塾大学商学部を卒業後、1978年3月に中央大学大学院商学研究科博士前期課程を修了、1981年3月に明治大学大学院経営学研究科博士後期課程を単位取得退学されました。博士後期課程在学中の1980年4月に名古屋学院大学経済学部助手として採用され、1981年4月から同大学経済学部専任講師、1985年4月から同大学経済学部助教授に昇任されました。その後1997年に獨協大学経済学部経営学科教授として着任されました。

先生は、ドイツ経営経済学者であり近代会計学の基礎を確立したシュマーレンバッハが編集主幹を務めていた貴重なジャーナル（Zeitschrift für handelswissenschaftliche Forschung）をはじめ、多くの文献や資料を渉猟されながら再評価を試みた『シュマーレンバッハ動態論』（中央経済社、1995年）を単著書として上梓しております。その後、シュマーレンバッハ研究を基礎としながら、学校法人会計、公益法人会計、税効果会計、近年では国際会計基準や概念フレームワークを巡るテーマについての論文を数多くご執筆されております。

講義では、「会計学原理」「会計学」「簿記原理」などを担当されました。「演習」では、学生の育成と指導に尽力されました。特筆すべきは、2002年から始まった経済学部主催の公認会計士養成講座に開講準備段階から関わり、その後の講座運営においても長期にわたって委員長として主導的な役割を担われたことであり、同講座から公認会計士試験合格者を輩出するに至りました。

獨協大学や獨協学園の運営においても、学部の役職として1998年4月から2年間、経済学部教務主任を、2014年4月から1年間、経営学科長を務められたほか、会計の専門家として2015年4月から6年にわたって獨協学園本部内部監査室監査委員を、2021年5月から2022年3月まで学生懸賞論文審査委員会委員長を歴任されました。2022年4月から獨協アカデミックサポートサービス株式会社の監査役にもなっております。

以上のように、経済学部はもとより獨協大学、獨協学園に多大の貢献をされた内倉滋先生が退職されることは大変残念なものと存じます。

なお、獨協大学は内倉滋先生の長年のご功績を讃えて、2023年4月に名誉教授の称号を贈呈いたしました。内倉滋先生には引き続き経済学部に対しご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。いつまでもご健康で活躍されることを祈念しております。

